

大谷園林保育園の取り組み

Ver 6



～1歳児編 其の2・「着脱」

生活習慣を身に付けることは、社会生活を送る上で大切なことです。今回は「着脱の自立」について、“一人でできる”を伸ばすコツについてお伝えします。

①発達から見る着脱

着脱は、身体操作を伴います。体を傾ける、腕を曲げるなどの粗大運動と手先操作が必要です。また、子どもが自分の体（身体像）を理解することや、衣服をかぶったり袖を通す際には空間知覚も必要です。

②同じ手順を守る

着脱の援助では、いつも同じ場所で手順を守ります。同じ場所で同じ手順を繰り返すことで、子どもが安心出来ると共に、次に行くことを予測しやすくなります。それが、子どもが着脱動作を身に付けるプロセスを支えます。

立ったり座ったりして、何とか自分で履こうと頑張っています。



最初はマジックテープだけ自分でしていましたが、今では靴に足を入れるところから一人で出来るようになりました。



靴を履く前に、靴下を履くことも身に付きました。



スムーズに出来なくてもあきらめず頑張り、それでも出来ない時は自分で保育者に助けを求めます。



③子どもが主体

最初は「してもらう」ことが多くても、行為の主体は子どもです。大人は子どもが出来ないことを手伝う人です。自我の芽生えから何でも自分でやりたがる時期は、子どもに出来ることは任せましょう。

④子どもの行為を認める

自分で出来たことを褒められると子どもは喜びます。自分で出来たことを具体的な言葉にして伝え、子どもの満足感・達成感を受け止め、次の意欲を育てます。

園で大事にしているポイント

スモールステップの積み重ね・・・例えば、靴下は足にひっかけてもらう、ズボンに片足を通してもらった状態から子ども達が自分ですること、行為の終わりを自分でし、出来た嬉しさや満足感を積み重ねています。



子どものペースを守る・・・「サッサと」「テキパキ」行動するのは大人であり子ども達ではありません。子どもが理解出来、子どもがしたいと思えるペースを守るようにしています。